



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四〇六号）

立冬 りっとう 十一月八日

記念展「皇女倭姫命」

こうじよ やまとひめのみこと

「神宮の博物館」といわれる神宮徴古館ちようこかんでは今、倭姫宮創祀そうし（創建）百周年記念展「皇女倭姫命あまてらすおのみかみ みつえしほ」天照大御神の御杖代みつえしほとして」が開かれています。

この記念展では、第十一代垂仁天皇すいにんの第二皇女である倭姫命が、天照大御神の「御杖代」として諸国を巡り、伊勢神宮の内宮の御鎮座に到ったことにちなみ、文献や資料などを展示し、その功績を伝えていきます。

なかでも、日本神話で英雄として知られる日本武尊やまとたけるのみことに一振りの剣を授ける場面を描いた画には、魅せられました。江戸時代の画人、田中訥言とつげんによって描かれたもので、東国へ征伐という国の大事業に向う日本武尊が、伊勢神宮に参拝した際のこと。甥である日本武尊に叔母の倭姫命は剣を授けたのです。そのときには、「慎みてな怠りそ」という言葉をおくっています。思い上がりや油断をしないようにという忠告です。この画を見ていると、その言葉がじんわりと思ひ浮かびました。江戸時代の人々にも倭姫命が崇敬されていたことがうかがえます。

そして、別宮・倭姫宮が創建された大正十二年に調製された御装束神宝おんしょうぞくしんぼうがずらりと並びます。新しい別宮の創建にあたり、調査や議論が慎重になされ、御装束二〇種、神宝七種が決まり、製作されたものです。昭和二十九年に撤下てっかされた特別展示の品々を目の前になると、百年前の創建時のさまざまにまな人々の苦勞や尽力が伝わってきました。

神宝には倭姫宮独自のものがありました。「御玉」といわれる水晶玉です。直径六センチほどの透명한玉は、なぜ製作されたのかと思う一方、倭姫命の神霊を表すようにも思いました。倭姫宮の御装束神宝の展示はまたとない機会ということですが、また、観覧者に配布される小冊子には、倭姫命の事跡がまとめられ、深く知ることができます。この記念展は今月二十六日まで。

文 千種清美



伊勢内宮前

おかげの里便り

おかげ横丁

○ 奉祝新嘗祭 第三回神恩感謝 三重新酒祭

11月23日、神宮では新嘗祭が執り行われます。

収穫された新穀を神様に奉り、その恵みに感謝して国家安泰と国民の繁栄をお祈りするのです。

おかげ横丁では、今年の収穫を感謝して新酒を奉納し、皆様にご披露する直会の宴を開催いたします。

今年の豊かな恵みを存分にお楽しみください。

日 時／令和5年11月23日（木・祝）15：00～19：00

場 所／おかげ横丁一帯

参加費／お一人様5,000円（予約販売）、当日販売6,000円

※4時間飲み比べ+酒の肴チケット3枚付き

※諸事情により一部変更もしくは中止する場合があります。

● 酒蔵体験

杜氏の案内で酒蔵を見学した後、蔵元でしか味わえない「しぼりたての生原酒」をご試飲いただきます。

日 時／11月23日（木・祝）15：00～18：00

場 所／おかげ横丁「伊勢萬内宮前酒造場」

定 員／各時間帯8名（事前申込制）

参加費／無料

● 特別対談～日本酒を楽しく美味しく～

伊賀焼・土楽窯七代目 福森雅武氏と木屋正酒造六代目 大西唯克氏が、日本酒を楽しむ器のたしなみと美味しい飲み方について語ります。

日 時／11月23日（木・祝）15：10～16：00

場 所／おかげ座「太鼓櫓」

出演者／福森 雅武氏（土楽窯七代目陶工／伊賀市出身）

大西 唯克氏（木屋正酒造六代目／名張市出身）

定 員／100名

参加費／無料

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 式年遷宮の歴史

持統天皇4年（690）に第一回が斎行されてから、平成25年（2013）まで、実に1300年以上、62回にわたって続けられてきた式年遷宮も、あと10年後に第63回を迎えます。

そこでこの機会に、①式年遷宮のはじまり、②南北朝時代における遅滞、③戦国時代における中絶、④安土・桃山時代における復興といった歴史を振り返りつつ、この1300年の歴史の重みを、皆さんと一緒に感じてみたいと思います。

日 時／11月13日（月）13：30～15：00

講 師／岡野 友彦（皇學館大学文学部長）

参加費／一般 1,400円 会員 900円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

くり
栗かのこ

晩秋から初冬へと季節は移ろい、伊勢路の空に浮かぶのは明るく美しい月の姿です。大納言小豆に栗を置き、澄んだ秋の夜を表現しました。

もち
うずら餅

冬の足音が近づくと、野生の鶉が伊勢の里に姿を見せます。栗と粒餡を求肥で包み、愛らしい鶉の姿に仕上げました。

こう
紅 葉

神路・島路の山々にも紅葉の季節が訪れ、山のふところには所々に鮮やかな赤みが見られます。二色のきんとんで山々の秋を彩りました。